

外国語としての英語教育における視聴覚メディアツールの応用

赤瀬 正樹*

Application of Audiovisual Media Tools in Teaching English as a Foreign Language

AKASE Masaki

This study examines how audiovisual media tools can be applied to teaching English in classroom settings. With advances in ICT, English teachers now have a variety of options to choose from. This paper gives an account of the development and definition of audiovisual media, then introduces three media tools: *Audacity*, free open-source digital audio editor and recording software; *VideoStudio*, a video editing software package featured basic cutting and trimming; and Office 365's *Microsoft Forms*, a simple, lightweight tool for creating surveys and quizzes. These media tools are powerful in organizing teaching materials and collecting valuable data from learners. Also, they are useful in expanding the way teachers teach and learners learn. The paper concludes that the employment of these tools is a process, not a target and English teachers should understand their features and incorporate them into their teaching as needed.

キーワード：視聴覚メディア、ICT、英語教育、教材

1. はじめに

2020 年度（令和 2 年度）から実施された学習指導要領（文部科学省、2018a, 2018b, 2019）では、小学校から高等学校までの外国語活動や外国語科の目標で共通している点がある。それは、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることである。これは、外国語で表現し合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することである。

英語教材の中で、どのような教材が効果的であるかを考える際、視聴覚メディアを用いた教材は、学習者が文字を読むだけでなく、音声を聞いたり、映像を見たりすることによって、英語教師以外の英語に接する機会を与える。本物の英語を音声を通じて聞けるだけでなく、映像を通じて実際に英語が使われる状況やジェスチャーなども分かる。

視聴覚メディアを用いることによって、英語そのものの学習もできるがそれ以外のコミュニケーション要素にも触れることは大きな利点であり、上述した学習指導要領の基本目標達成の一助となる。

授業において、英語教師は様々な視聴覚メディアの特徴を理解した上で、効率的に使用することが求められる。うまく組み合わせることによって、教師ばかりが一方向的に話す授業から脱却し、学習者の主体的な活動時間を確保する可能性が広がる一方で、視聴覚メディアはあくまでも指導、学習の効率を上げるためのものであり、活用自体が目的とならないように適切な利用方法を考える必要がある。本稿では、視聴覚メディアの発展と定義を確認した後、視聴覚メディアツールについて言及する。具体的には、音声編集用フリーソフト *Audacity*、動画編集ソフト *VideoStudio*、アンケート・テスト作成ツールである *Microsoft Forms* の 3 つに焦点を当てて、その特徴と使用法を検討する。

2. 視聴覚メディアの発展と定義

現在の教育活動においては様々なメディアが用いられ、学習者の言語活動である「読む」、「聞く」、「話す（やり取り・発表）」、「書く」が支えられ、これらを

* 一般科准教授

原稿受付 2021 年 5 月 6 日

統合した活動が促進されている。まず、聴覚メディア、視覚メディア、視聴覚メディアに分けて概観する。

伝統的な聴覚メディアとして、代表的なものに CD プレーヤーが挙げられる。教科書に付属する副教材として欠かせないものであり、新出語彙の発音練習、リスニング、音読、リピーティング、シャドーイングなどのモデルとして活用できる。視覚メディアの代表的なものには、黒板、プリント、フラッシュ・カードといったものがある。黒板にチョークで書かれた情報は学習者にとって身近な情報であり、プリントは、情報整理の効率を高めるための補助的なものであったり、授業をもとにした応用的なものであったり、課題や宿題などの自習的なものでもある。フラッシュ・カードは主に学習者が新出語彙を定着させる際に有益な教具である。表面に英語、裏面に日本語が書かれ、語彙の導入、確認、復習の際に使用される。

近年では情報通信技術 (ICT: Information and Communication Technology) の発展とともに教育場面にも大きな変革が起きている。視聴覚メディアは、学習者に映像的・感覚的な経験を通して学習を促すものであり、視覚や聴覚に訴える媒体を用いるものと定義される (上村・堀井・内田, 2002)。具体的には、絵画をはじめビデオやスライド、映画やインターネットなどが視聴覚メディアとされている。授業において、DVD が活用されており、教師が人物伝や映画作品などを扱う場合は、学習の前後にストーリーの背景となる場面を見せたりすることで、英語学習の内容を豊かにすることができる。さらに PC を用いた授業も主流となってきており、映像配信機能を使った反復視聴によるリスニング、ディクテーション、シャドーイング、録音を伴った言語活動の他にも、パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを活用して学習者主体の参加型学習活動を行うことが可能となっている。

教育効果の観点から、視聴覚メディア教材のメリットとして、辻 (2008) は、①学習者の印象に残る学

習資料を提示できること、②講義だけでは伝えにくい点、現実的な場面を提示できること、③対面授業と効果的に組み合わせることにより、相乗的な学習効果が期待できること、の 3 つを挙げており、指導・学習場面において有効であることが言われている。

3. 視聴覚メディアツールについて

パーソナルコンピュータ (PC) は日本の英語教育に大きな変化をもたらし、授業においては、教師の板書と口頭による説明や教授形態を取っているものも依然としてあるが、視聴覚メディアツールを補助的に活用した授業形態も珍しくはなくなってきた。現在のコロナ禍により、小中高においても今後さらに ICT 環境の整備が急務とされる中で、授業においても視聴覚メディアやパソコンやタブレットなどの機器が遠隔授業や対面授業の中でも積極的に活用されることが予想される。英語の授業においても様々な選択肢が考えられるが、その中でも有用とされるソフトウェアやツールについて、その特徴と活用方法を述べることにする。

3-1 音声編集用フリーソフト

多機能なオーディオ編集ソフト Audacity は、無料でダウンロード可能である。Audacity の利用方法の利点として挙げられるのは、複数の音声ファイルを同時に取り込むことができ、編集を行える点や、編集した音声を再生する場合もどのようになっているのかを少しずつ確認しながら利用できる点である。音声の流れの箇所は、波形で示され、波形がない線路が無音部分であり、音声の切れ目となっている。音声を特定の箇所から再度聞き直したい時は、数字のある定規の箇所 (図 1 の太枠部分) をクリックすればそこから音声が再生される。また、任意の区間を聞きたい場合は、定規の箇所カーソルを持っていき、音声の開始点から終点まで右クリックを押したままドラッグすればその区間の音声が再生される。

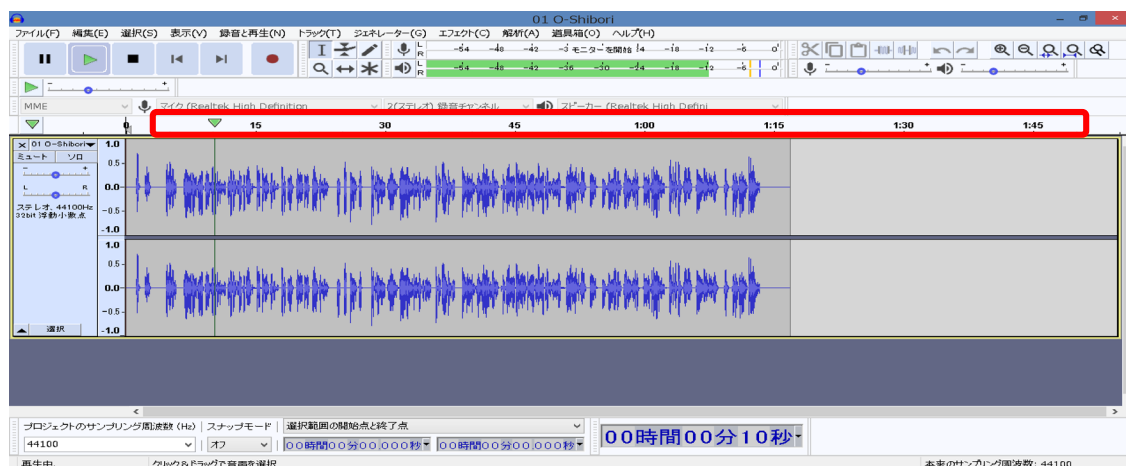


図 1. Audacity の操作画面

Audacity を利用することで、音声の切れ目を視覚的に把握することにつながり、楽に切れ目を予測することができる。さらに、流れてくる音声をただ聴き取るのではなく、音声波形と音声波形の切れ目を目で見て確認できる点や、音声の切れ目をクリックして、そこから素早く再生できる点は、内容理解を促すことのみならず、同時発音することによって自分の間違えている箇所への気づきを促し、アクセントやイントネーションを再現しやすくなり、学習者のリスニングやスピーキング力向上につながっていくことが期待できる。

3-2 動画編集ソフト VideoStudio

VideoStudio とされる有料の動画編集アプリを使用することで、カット編集、トリミング、BGM の挿入、テキストテロップ、トランジション（動画と動画の間をつなぐ特殊効果）、その他の機能やレンダリング（書き出し）といった一連の作業を行うことができる。図 2 に示すように、任意の動画素材を選択し、左クリックでつかんだまま画面下にあるタイムラインにビデオを挿入し、Project（▶ボタン）をクリックすると動画が再生される。この動画は任意の長さで調整すること（トリミング）が可能であり、タイムライン内の動画を左クリックし、ドラッグすればその分短くすることができる。画面の秒数表示の箇所をクリックすると白い矢印が挿入される。その際に右クリックでクリップの分割を選択すると動画を分割できる。これによって、間の不要な部分をカットすることができる。タイムラインの変更もドラッグして動かすことが可能であり、動画を何枚も重ねて表示することができる。音楽ファイル MP3 形式はミュージック 1 へ挿入し、音量は必要に応じて調整でき、動画の切れ目でフェードアウト機能も利用できる。タイトル挿入は、画面中

央にある T マークをクリックすると、画面上に文字を入力できるようになる。タイトル 1 にも同じ文字が挿入され、好きな位置にタイトルを持ってくることができる。トランジションは同じく画面中央の **AB** ボタンをクリックすれば、動画と動画の間の移行を自然な形で円滑に行えるようになる。

VideoStudio のような動画編集ソフトウェアを活用すれば、撮影したビデオの必要な部分を切り出してつなげたり、静止画を挿入したり、字幕を入れたりすることができる。またタイムラインの動画を右クリックし、再生速度変更/タイムラプスを使って再生速度を変える機能も利用できる。動画編集ソフトを活用することによって、映像画面の上下に日本語字幕と英語字幕の表示できる。学習者は日本語表現と英語表現の差異に気づく仕掛けを作ることも可能である。また動画を確認しながら、どんな場面でどのような表現が出ているのか確認させ、練習に用いることにより、場面や状況に応じた実践的なコミュニケーション能力の向上につなげていくことも期待できる。

3-3 アンケート・テスト作成ツール Microsoft Forms

Microsoft Forms とは、Office365 のアプリケーションの 1 つであるアンケート作成ツールである。主な使用方法としては、図 3 で示したようなアンケート調査や遠隔授業後やセミナー後の理解度確認テストが挙げられる。このアプリケーションを活用することで、アンケートの回答結果のデータを Excel ファイルに保存したり、Office365 の他のアプリケーションへ連携したりすることが可能である。アンケート結果に関するグラフの作成や集計する手間が省け、集計結果が自動作成される点は特筆すべき点である。

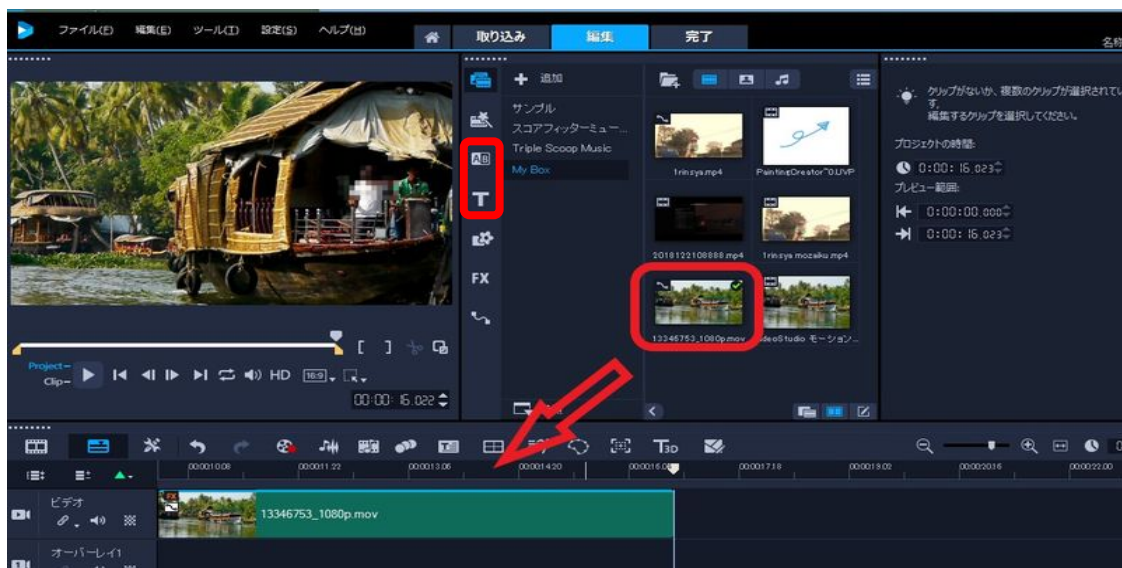


図 2. Video Studio の操作画面

図 3. Microsoft Forms で作成したアンケート例

アンケートやテストを紙ベースで実施することも可能であるが、データを入力する手間や回答者の負担を考えると、Microsoft Forms の利用は一考に値する。さらに、特定の質問項目の下にある「必須」をオンにすれば、記入漏れの心配もないことから効率の良いデータ収集が可能となる。自由記述回答も可能であり、結果を量的・質的観点からも別のソフトウェアと組み合わせることで教育や研究を進める上でも利用価値が高いと考えられる。また英語の授業においても学生に対して Forms を使ったアンケートを実施することで、教師自身の授業内における指導の内省を図ることができ、授業力向上にも役立つツールと言える。

4. 結論

本稿では、視聴覚メディアツールを通じた英語教育への応用を視野に入れて考察を深めた。様々な視聴覚メディア教材は、教師が行う授業を効率的に行うためだけでなく、授業に活力を与えるのみならず、学習者の自学自習を促進したり、学習意欲を高めたりするのに重要な役割を果たす。しかし、最初の節においても述べたように、視聴覚メディアはあくまでも指導、学習の効率を上げるためのものであり、手段であり目的とはならず、学習に変化をもたらせるためのきっかけの一つであるということである。

視聴覚メディア教材やICTを活用した教材のデメリットとして考えられるものは、教師と学生のコミュニケーション不足が生じやすいことである。したがって、何を授業で行い、何を授業外で行うかのバランスを考

え、対面で行うことや視聴覚メディアで行うことを状況に応じてどちらが学習効果を高めるのに適切なのかを教師は判断し、見極めることが求められる。岡（2020）において言及されているように、今後は、ますますマルチメディア化する教材や教具を授業計画の中で、「いつ」、「どのように」、「何を学ぶために」使用するのかを考えた上で利用しなければならない。英語教師は、視聴覚メディア教材のメリットやデメリットや限界も理解した上で、どのようにしてこれらを駆使して効果的な指導を行うべきかを模索していく必要があるだろう。

参考文献

- 1) 上村和美・堀井祐介・内田充美 (2002). 「視聴覚メディアの作成とその効果的な利用方法について」『関西国際大学研究紀要』第3号, 29-42.
- 2) 岡秀夫 編著 (2020). 『新・グローバル時代の英語教育』東京：成美堂.
- 3) 辻義人 (2008). 「視聴覚メディア教材を用いた教育活動の展望」『小樽商科大学人文研究』第115号, 175-194.
- 4) 文部科学省 (2018a). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』東京：開隆堂.
- 5) 文部科学省 (2018b). 『中学校学習指導要領解説 外国語編』東京：開隆堂.
- 6) 文部科学省 (2019). 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』東京：開隆堂.